

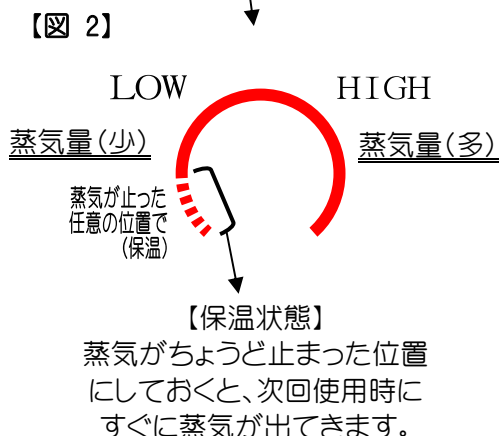
パワースチームガン をご理解下さい…!!

パワースチームガンは、伝導効率を上げて蒸気を発生させる為にタンク内に少量の塩を添加します。この塩の量によって蒸気量に変化いたしますので、必ず下記の取扱説明をよく読んで正しくご使用頂きますようお願いいたします。

【 ご注意 】

- 商品納品時には予め適量の塩がタンク内に添加されております。使い始めは水（精製水等）のみを注入して下さい。
- 通常使用時の水分追加時も、水（精製水）のみを入れて下さい。リセット水は、タンク内の水を捨ててしまっても塩分濃度が変わり、蒸気が出ない等の場合のみご使用下さい。
- 必要以上にリセット水を追加すると塩分濃度が高くなり保温状態にしても蒸気が出続れたり、HIGHまで上げた時にヒューズが切れたりします。

【使用法】



① まず、電源を入れる前に、注水口キャップを取り外して、注水ボトルで注水口よりタンクへ水のみを注入して下さい。（必ず水位を守って下さい。入れ過ぎるとノズルから吹き出る恐れがあります。）

② 注水口キャップをしっかり閉めて、電源を入れて下さい。

【注意】

水は必ず精製水等をお使い下さい。

水道水を使うと水中の不純物等がヒーターに付着して蒸気の出が悪くなる事があります。

③ 電源を入れた後、ボリュームを HIGH の位置まで回して下さい。（LOW の位置のままではタンク内の水が沸騰しません）

④ 電源を入れ始めた時のみ蒸気発生まで 2 分程掛かります。使い続ける時は、その都度電源を切らずに、コントロールダイヤルを保温の位置（蒸気がちょうど止まった位置）にしておくとタンク内の水が温められた状態になり、コントロールダイヤルを回すとすぐに蒸気が出てきます。

※ダイヤルを蒸気がちょうど止まった位置以上に左に回し過ぎると、タンク内の水が冷めてしまいすぐに蒸気が出なくなります。

注意！《LOW (保温) の範囲内で調整が出来ない場合…》

◎ 保温の範囲なのに蒸気が出てしまう場合は、次ページの【タンク内の塩分濃度調整】を参考に再調整して下さい。

⑥ コントロールダイヤルを回すことによって蒸気の調整が簡単に出来ます。用途に合わせて調節してご使用下さい。またノズルの先端は温度が上がっておりますので、コテとしてもご利用できます。作業内容によって使い分けて下さい。

《こんな場合はタンク内の塩分濃度を調整して下さい》

症 状	原 因	対 処 法
◎タンク内の水を捨ててしまった。 ◎タンクに水を入れすぎて、沸騰したときにノズルから吹きこぼれてしまった。	塩分濃度が変化してしまいます。	<p>下記の手順にて、タンク内の塩分濃度をリセットして下さい。</p> <p>① 一度タンク内の水を捨てて下さい。</p> <p>② タンク内を水で2～3回すすいでしっかり洗淨して下さい。</p> <p>③ 付属のリセット水を、残さないように1本全てタンクに注水して下さい。</p> <p>④ 規定量を超えないように注意しながら水(精製水等)を注水してください。</p>
◎ダイヤルを保温の状態にしても蒸気が出る。	塩分濃度が濃くなり、蒸気発生率が高くなっています。	
◎電源を入れるとヒューズが切れる	塩分濃度が濃くなり、通電性が高まり規定よりも多くの電気が流れている。	
◎ダイヤルを保温の状態から上げて、すぐに蒸気出ない。	塩分濃度が薄くなり、蒸気発生率が低くなっています。	

上記内容からお解かり頂けるように、より良い蒸気発生には塩分濃度に非常に左右されます。
【タンク内の塩分濃度調整】を良くお読み頂き、最適な状態でご使用頂きますようお願い致します。

御注意

- タンク内に入れる塩の量は非常に重要ですので“タンク内の塩分濃度調整”をよく読んで必ずお守り下さい。
- タンクに入れる水は、必ず精製水をお使い下さい。水道水を使うと水中の不純物等がヒーターに付着して蒸気の出が悪くなる事があります。(保障対象外となります)
- 安全弁の紛失にはご注意下さい。開いたままの状態ですと本体を傾けた状態で熱湯がこぼれて火傷をする恐れがあります。
- 一日の仕事が終わった後は、必ず電源を切って下さい。
- コテ先及びその周辺は非常に高温になっていますので、取扱には十分注意して下さい。
- パワースチームガンをシミ抜き以外の目的で使用しないで下さい。
- 本体のタンク内に設置されております電極棒は構造上消耗品となります。使用頻度にもよりますが、およそ1～2年に1度点検にお出し下さいますようお願い申し上げます。